

# 豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業 経常事務事業 **建設事務事業**

第5次行政改革大綱第1次アクションプランとの関連  
 有  
 無

## 1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	公園・緑地美化意識の醸成事業								
1-2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	都市計画課	係	公園緑地係	評価票作成者	公園緑地担当係長 朝岡正志	
1-3 総合計画における施策の体系	節	生活環境 「安全・安心で、うるおいのあるまちづくり」			基本施策	公園・緑地		コード	1 2 2
	項	水と緑の環境づくり			単位施策(中)	維持管理		コード	1 2 2 2
					単位施策(小)	公園・緑地美化意識の醸成		コード	1 2 2 2 2
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	市民		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)		市民に地区の公園・緑地に愛着を持ち美化を意識をさせる。			
1-5 事務事業の内容	各行政区に公園の広場の草刈やごみ拾い等の維持管理をお願いし、町内会等で共同清掃作業を実施し、その中で公園・緑地への美化意識を養っていく。								

## 2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	平成18年度	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み 住民主体で地域の公園を維持管理することにより愛着がわき、悪戯等による施設の破損が減る。	社会状況等の事務事業がおかれる環境把握 地域のシンボルとしての公園に対する地域住民の意識が薄れ、ごみの放置、落書き等も多くなっている。 若者の夜間の利用が多く器物損壊、騒音に対する周辺市民からの苦情が増えている。	市民ニーズの認識 地域住民の意識の薄れからくるごみの放置や落書き等により公園に暗いイメージを作ってしまうので住民に美化意識を養っていただく必要がある。
	平成19年度	〃		〃
	平成20年度			
	平成21年度			
	平成22年度			
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名	前期目標値(公園)	後期目標値(公園)	指標の説明
	公園・緑地美化意識の醸成実施公園数(公園)	57(公園)	57(公園)	市内56公園の全てにおいて当該事務事業が満たされることをめざし目標値とし、その箇所数を指標とした。

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績 a(公園)	56	57								
	直接事業費 b(千円)	2,859	2,893								
	人件費 c(千円)	402	400								
	合計コスト d(b+c)(千円)	3,261	3,293								
単位コスト d/a(千円)	1公園当たり 58	1公園当たり 57	当たり								

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 直接事業費は各行政区と契約している公園管理委託の契約金額の合計である。人件費は係総事業費(3人分)の4割の内5%とした。

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(公園)	56(公園)	57(公園)								
	後期目標値に対する達成度(%)	98(%)	100(%)								

### 3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価		A	A								

4段階評価結果 A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する  
 B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要  
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要  
 D : 事務事業の廃止が相当

判断の基準 必要性(必要な事務事業であるか)  
 公共性(公が実施する意味があるか)  
 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)  
 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)  
 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)  
 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
平成18年度 平成19年度 平成20年度 平成21年度 平成22年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度	平成18年度	公園の維持管理費の予算が減少してきているので、今まで以上の市民協働が求められる。	履行状況が行政区によってばらつきがあるので、指導及び支援することで改善する必要がある。	悪戯による公園施設の破損等がH17年度よりもH18年度が大幅に減っていることから当該事務事業の効果があるところがうかがえる。
	平成19年度	〃	美化意識のばらつきの改善。	地元区からの要望に可能な限り早急な対応を心がけ、市民に安心満足感を提供している。
	平成20年度			
	平成21年度			
	平成22年度			
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			

### 4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度 平成19年度 平成20年度 平成21年度 平成22年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度	平成18年度	A	継続して事業を進めること。
	平成19年度	A	継続して事業を進めること。
	平成20年度		
	平成21年度		
	平成22年度		
	平成23年度		
	平成24年度		
	平成25年度		
	平成26年度		
	平成27年度		